

冬期間もトマトキバガの発生が確認されました 育苗期や定植後の食害発生に注意しましょう

1 作物名 トマト、ミニトマト

2 発生現況

- (1) トマト栽培ほ場周辺で実施したフェロモントラップ調査(令和6年5月～11月)では、7月に誘殺が確認され、9月から誘殺数が増加し、10月にピークを迎えた。
- (2) トマト栽培ほ場での食害は、令和6年5月に初めて確認され、その後も複数のほ場で食害が散見されるようになり、県内で広く発生が認められた。
- (3) 令和7年1月にはトマトの長期栽培ほ場において食害が確認された。また、令和7年2月には育苗中の苗も食害が認められた。
- (4) 令和7年2月にはトマトの栽培終了後のハウスにおいて成虫が確認されており、冬期間でも本虫の発生が認められた。
- (5) 以上より、育苗期や定植後から県内広域でトマトキバガによる食害の発生が懸念される。特に、発育ゼロ点が8℃程度とされているので、冬期間もビニル等で被覆しているハウスでは注意が必要である。



写真1 トマトキバガによるトマト葉の食害痕



写真2 ハモグリバエによるトマト葉の食害痕
(原図: 宮城県農業・園芸総合研究所)

3 防除のポイント

- (1) 「令和6年度発生予察情報防除情報第3号」を参照し、トマトキバガの生態や被害の特徴を把握する。特にハモグリバエの被害と混同しやすいので注意する(写真1、2)。トマトキバガの食害は面状であるのに対し、ハモグリバエ類の食害は線状である。
- (2) 育苗中からはほ場をよく見回り、発生の確認に努め、幼虫による食害が見られたら直ちに本虫に登録のある薬剤で防除する。
- (3) 本虫は世代のサイクルが早く、海外ではピレスロイド系(IRACコード:3A)やジアミド系(IRACコード:28)などの殺虫剤で薬剤抵抗性の発達が報告されていることから、薬剤を使用する際は同じIRACコードの薬剤を連用しない。
- (4) 本虫は茎葉やがく片等に産卵するので、不要な葉やわき芽を除去し、耕種的防除を行う。

- (5) トマトやミニトマトの施設栽培では、ハウス入り口や開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を設置し、本虫の施設内への侵入を防ぐ。
- (6) 食害された葉や果実は本虫の発生源となるので、土中深くに埋設するか、ビニル袋等に密封して本虫を死滅させたのち、適切に廃棄する。

表 トマト、ミニトマトでトマトキバガに対して登録のある農薬(令和7年2月12日現在)

登録作物		IRAC コード	商品名	使用方法	希釈倍数 ・ 使用量	本剤の 使用回数	使用時期	参考 適用害虫			
トマト	ミニ トマト							アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	オオタバコガ
○	○	28	バリマークSC	灌注	400株当たり25mL	1回	育苗期後半～ 定植当日	○	○	○	
○	○	28	ブリロソソ粒剤オメガ	株元散布	2g/株	1回	育苗期後半～ 定植時	○	○	○	
○	○	28	ブレバソソフロアブル5	灌注	100倍	1回	育苗期後半～ 定植当日		○		
○	○	5	ディアナSC	散布	2,500～5,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○		○
○	○	5	ラディアントSC	散布	2,500～5,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○		○
○	○	5	ダブルシューターSE	散布	1,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○		○
○	×	6	アグリメック	散布	500～1,000倍	3回以内	収穫前日まで	○	○		
○	○	6	アニキ乳剤	散布	1,000倍	3回以内	収穫前日まで	○※1	○		○※2
○	○	6	アフーム乳剤	散布	2,000倍	5回以内	収穫前日まで		○		○
○	○	11A	エスマルクDF	散布	1,000倍	—	発生初期(但し、 収穫前日まで)				○※3
○	○	11A	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	1,000倍	—	発生初期(但し、 収穫前日まで)				○※3
○	○	11A	チューンアップ顆粒水和剤	散布	2,000倍	—	発生初期(但し、 収穫前日まで)				○
○	○	13	コテツフロアブル	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで	○※1			○
○	×	22A	トルネードエースDF	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで				○
○	×	22A	ファイントリムDF	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで				○
○	○	22B	アクセルフロアブル	散布	1,000倍	3回以内	収穫前日まで				○
○	○	28	フェニックス顆粒水和剤	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで				○
○	○	28	ブレバソソフロアブル5	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで				○
○	○	28	ベネビア0D	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで	○	○	○	○
○	○	28	ヨーバルフロアブル	散布	2,500倍	3回以内	収穫前日まで	○	○	○	○
○	○	30	グレーシア乳剤	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○		○
○	○	UN	プレオフロアブル	散布	1,000倍	2回以内	収穫前日まで				○

農薬の使用前には必ず最新の農薬登録情報を確認すること

※1 ミカンキイロアザミウマのみの登録 ※2 オオタバコガの希釈倍数は2,000倍の登録 ※3 野菜類での登録

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

参考写真



写真3 トマト葉の食害痕



写真4 トマト葉の食害痕と幼虫



写真5 トマト果実の食害痕
(原図: 岩手県病害虫防除所)



写真6 トマトキバガの幼虫



写真7 トマトキバガの蛹



写真8 トマトキバガの成虫